

## 今年も復興への「想い」が実を結びました ～ブルーベリー農園にかける想い～

宮城県気仙沼市の農業委員を務める熊谷活男さん（69歳）が営む「ブルーベリーハウス気仙沼」では、食べ頃を迎えた大粒の果実が青紫に色づいている。

もともとユリの施設園芸を営んでいた熊谷さんがブルーベリーの観光農園を始めたきっかけは、東日本大震災。消防団員としての消火活動



中、「炎に消えていく街並みを見て、気仙沼の人たちが楽しめる場所を新たに作りたいという思いに駆られた」という。

熊谷さんはインターネットで情報を集め、ノウハウを学ぶべく愛知県岡崎市に。ユリとは全く違う栽培方法を一から学び、震災で天井が抜け落ちたハウスを再建。今やハウスは26品種、700株もの苗木で埋め尽くされ、仙台や石巻からも来客がある。

ブルーベリー狩りを楽しんだお客さんが涼めるようにと始めた「カフェ蔵ssic（クラシック）」は、敷地内の築150年になる蔵を改装したもの。レアチーズケーキなど、農園で採れたブルーベリーを使ったスイーツも楽しめる。

品種ごとに収穫時期が異なるため、9月くらいまでブルーベリー狩りが楽しめる。夏休みに家族で訪れてみては。

